

# 競技・審判上の注意

## 1. 競技上の注意

### 1) 競技規則

本大会は、現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規程、関東大学リーグ戦施行細則に基づき厳正に競技を運営します。

### 2) レギュラー登録用紙

レギュラー登録用紙は、大会前の決められた時間までに提出することとします。  
なお、登録人数は14名以内とします。

### 3) オーダー用紙

オーダー用紙が「正」「副」「控」の3枚複写式となっています。各試合前、本部まで提出することとします。提出の際には記載責任者の捺印を3枚全てに行ってきてください。オーダー提出が遅れた場合には、棄権とみなします。また、オーダー用紙は本部で確認後各大学にお渡しします。

### 4) 選手の集合

各大学は、受付時間に受付を済ませ、試合ごとに指定されたコートに集合することとします。コール後、5分経過しても指定されたコートに集合しない場合には棄権とみなします。なお、事前に棄権することがわかっている場合には大会事務局に申し出ることとします。

### 5) ベンチ入りメンバー

ベンチ入りは、レギュラー登録してある選手（男子・女子共に14名）・部長・監督・コーチ・主将・主務とし、その他の方は、2階観客席より応援してください。

ただし、各会場内の設置スペースに限りがある場合はその数を上限とする。

ベンチ・コーチ席は原則着席となりコートのそばに立ってはいけません。

### 6) メンバー変更

レギュラー登録は規定人数内であれば代表者会議においてのみ選手・コーチの削除、入替、追加を認めることとします。代表者会議時以降の追加・変更は一切認めません。これは入替戦にも適用されます。

### 7) 試合開始前の練習について

試合前の練習は各対戦ごと2分間を主審が計時します。

主審が行くまでは練習は出来ません。

メンバーチェンジ申請中もこれと同様とします。

また、各会場では決められた練習時間を利用することとし、空きコートや体育館のフロアや通路等では素振り等の練習も一切認めません。

8) オーダーの変更

勝敗決定後のオーダー変更については、各大学の監督の同意を得た後に、オーダー変更用紙を提出することとします。(監督の不在時には本部席まで申し出てください)

9) 試合の打ち切り

リーグ戦最終日のみ各対抗戦の勝敗が決定し、すべてのチームの順位が確定次第並行試合を含むすべての試合を打ち切りとします。このときの記録は、その時点での記録を残すものとします。

10) 着衣

色付き着衣を使用する場合は、競技の品位を保つために(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。ウェア上衣の背面には、大学名を正式名称ではっきり分かるように明示すること。背面の大学名は高さ6~10cmの範囲とし、ゼッケンを使用する際には四隅をしつかりと止めていることとします。

また、背面の省略、ロゴマークは全日本学生バドミントン連盟の「着衣上の背面、ロゴ等の表示に関する取り決め」の通りとします。

11) インターバル

すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが先に11点になったとき、60秒を超えないインターバル、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。

12) 競技規則違反者(チーム)への対応

競技規則等に違反した者(チーム)の処分は、大会本部で協議の上決定します。

13) シャトルについて

シャトルは検定合格品で銘柄の変更には応じられません。

14) 携帯電話について

ベンチ入りの者は、マッチ(試合)中のコート又はコート周辺では携帯電話の電源はオフにしてください。また競技範囲を含めたその周辺での携帯電話・スマートフォン・タブレットなどのモバイル機器は使用できません。モバイル機器を使用するのアドバイスは禁止です。

## 2. 審判上の注意

1) 審判員の配置

主審・線審2名の審判員と得点表示員の計4名で行うこととします。また、審判

員は試合をする大学の第三者が行うこととし、主審は原則として公認審判員の有資格者が行います。

得点表示は両チーム相談のうえ行ってください。

## 2) 主審への助言

主審は、本部からスコアシート、シャトル等を受け取りコートに向かいます。選手を集め、挨拶とトスを行います。その際に、オーダー通りの選手がコートに入っているか、着衣が規程にかなっているかどうか、線審が正しく位置しているかどうかを確認します。

準備が整ったら、シングルス・ダブルスそれぞれのコールをします。

(シングルス) オンマイライト A 大学、レプリゼンティッド バイ X さん、オンマイレフト B 大学、レプリゼンティッド バイ Y さん、A 大学トゥーサーブ、ラブオール、プレー

ダブルス) 「オンマイライト A 大学、レプリゼンティッド バイ W さん X さん、オンマイレフト B 大学、レプリゼンティッド バイ Y さん Z さん、A 大学トゥーサーブ、X さんトゥー Y さん、ラブオール、プレー」

一方のサイドが 11 点になったときのインターバル 60 秒はスコアのコールと同時に、ゲームとゲームの間のインターバル 120 秒は「ゲーム」のコールと同時に計時します。また、残り時間が 20 秒になったら、「O コート、20 秒」とコールし、そのコールを繰り返して選手をコートに入れます。

どちらかのサイドがそれぞれのゲームで最初に 20 点になったときは、サービングサイドのスコアの直後に「ゲームポイント」または「マッチポイント」と適切にコールし、レシービングサイドのスコアをコールします。また、29 点になったときも同様にコールします。

それぞれのゲームの終わりには、「ゲーム」とコールします。その後、第 1 ゲームの後には、「ファーストゲーム ワンバイ ○○大学」「スコア」とコールし、第 3 ゲームがある場合の第 2 ゲームの後には、「セカンドゲーム ワンバイ ○○大学」「スコア」「ワンゲームオール」とコールします。また、マッチが終わったときには、「マッチ ワンバイ ○○大学」「全スコア」とコールします。

第 2 ゲームを開始するときは、「セカンドゲーム、ラブオール、プレー」とコールし、第 3 ゲームを開始するときは、「ファイナルゲーム、ラブオール、プレー」とコールします。

第2ゲームを開始するときは、「セカンドゲーム、ラブオール、プレー」とコールし、第3ゲームを開始するときは、「ファイナルゲーム、ラブオール、プレー」とコールします。

主審は、ショートサービスライン・センターラインや、サービスフォルト・レシーバーフォルトの判定をします。サービスジャッジは原則としてつけませんが、主審が必要と判断した場合は、競技役員長（レフェリー）と協議して任命することができます。

選手より棄権の申し出があったときや、判断に困ることがあった場合には、手を挙げて競技役員長（レフェリー）を呼んでください。

主審は、コートに着いてから離れるまで、常にコートを管理します。また、判定については決して観客に尋ねたり、その言動に影響を受けないようにします。

### 3) 線審への助言

線審は、担当ラインについて全責任をもちます。判定については、決して観客に尋ねたり、その言動に影響を受けないようにします。

シャトルがコート外に落ちたときには、どんなに遠くても、大きな声で「アウト」とコールし、同時に、主審がよくわかるように両腕を水平に広げて合図します。

シャトルがコート内に落ちたときには、線審は無言で、右手でそのラインを指します。

### 4) プレーの遅延について

プレーヤーは、どんなことがあっても体力や息切れを回復できるように、またはアドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはなりません。また、コート内を不必要に歩き回ったりすることは許されません。

### 5) コートの外からのアドバイスについて

シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ（試合）中、アドバイスを受けることができます。

### 6) シャトルの交換について

マッチ（試合）中のシャトルの交換は、主審が必要かどうかを決定します。

### 7) 不品行な振舞いについて

競技規則第16条第4項、第5項、第6項のいかなる違反に対しても、主審は次の処置をとります。

(1) 違反したサイドに警告をします。

(2) 一度警告の受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトにします。

(3) 目に余る不品行な振舞いをしたり、またはそれを続けたりした場合には、その違反したサイドをフォルトとし、直ちに競技役員長（レフェリー）に報告します。

8) 判定への質問について

審判員の判定の対して疑問がある場合は当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められます。ただし、抗議あるいは異議であってはなりません。

### 3. その他の注意

1) 部旗の掲示

部旗は競技に支障をきたさない大きさのものを使用することとします。また、施設保護のためガムテープの使用は禁止とします。なお、部旗を取りつける場合は、状況によって移動をお願いする場合があります。

2) ビデオ撮影

試合のビデオ撮影は認めます。ただし、撮影の際は内蔵のバッテリーを使用することとし、体育館内の電源コンセントの使用は禁止します。

3) 怪我について

応急処置は行うが、その後の責任は各参加者の負担とします。傷病発生の場合は必ず大会本部に届け出ることとします。

4) ごみについて

ごみ等は、各自必ず持ち帰ることとします。

5) 飲食について

アリーナ内での飲食は一切禁止とする。ベンチ内での給水はスクイズボトル等の蓋つき容器のみ使用を認めます。また、クーラーボックスの持ち込み等も禁止とします。

6) 喫煙について

体育館での喫煙は指定された場所のみ可能とし、その他の場所は禁煙とする。

7) その他

フロアー内は土足禁止です。フロアー内では室内シューズに必ず履き替えてください。スリッパ等は不可とします。

ロージン・雑巾等をアリーナ内に持ち込む場合には、アリーナを保護する物を下に敷くこととします。

学生派遣審判員に関して

期間中に各大学に依頼している学生審判員の方は下記の点に注意してください

- ・服装は白のシャツ・ポロシャツとし、黒のスラックスとする。
- ・スラックスの黒が無い場合は必ず前日までに確認し指示をあおいでください。
- ・当日は指定された時間に審判控室に集合してください、ミーティングを行います。
- ・集合後は全ての審判業務が終わるまではベンチ観客席には戻れません。
- ・公認審判員手帳は連日持参してください。

# 関東大学リーグ戦施行細則

## 第1章 リーグ戦出場資格

第1条 本連盟登録選手中より、毎季リーグ戦出場者として定められた期日までにレギュラー登録された者に限る。ただし、各大学4名以上の登録がなければ出場できない。

## 第2章 競技規則

第2条 現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規程により行なう。

## 第3章 競技方法

第3条 男女各部（ブロック）6～8校で編成し、部内（ブロック）の総当たり戦とする。

第4条 試合は2複3単とし、単、単、複、複、単で行うこととする。

第5条 試合開始の整列時において、オーダー用紙に記載された人員に欠員を生じた場合、その対戦校との試合は失格とする。

第6条 時間の都合上、勝敗が決まった時点で試合を2つ以上のコートで並行して行う事もある。このとき、第1ダブルスと第3シングルス兼ねていた場合はダブルス終了後15分までのインターバルを認める。

## 第4章 オーダー

第7条 オーダーは、所定の用紙で申込責任者が自筆捺印し、本部へ提出すること。また、提出時間は厳守することとし、遅れた場合は棄権と見なすこととする。第8条 一度提出されたオーダーは変更できない。

## 第5章 審判

第9条 審判は当事校以外の第三者が行なう。第10条 主審は3級以上の資格を持つ公認審判員で行なう。ただし、資格のある公認審判員がいないときは、それと同等の知識を有する者が主審を行う。

## 第 6 章 成績順位の決定

第 11 条 リーグ戦の最多勝校を最上位（優勝）とし、最多敗校を最下位とする。

第 12 条 同位校が 2 校以上あった場合、同位校間の取得マッチ数、これが同数の場合は得失ゲーム差で決める。また、得失ゲーム差も同数の場合は得失点差により決定する。得失点差が同数の場合は、直接対戦の勝敗で決定する。

〈例〉勝敗が同じ場合（取得マッチ数を見る）

A 校・B 校共に 3 勝 2 敗であったとき、各対戦校との取得マッチ数を合計する。

【A 校】	【B 校】	
A 2 - 3 B	B 3 - 2 A	A 校は 15 マッチ取得した。
3 - 2 C	3 - 2 C	B 校は 9 マッチ取得した。
2 - 3 D	3 - 2 D	
5 - 0 E	0 - 5 E	
3 - 2 F	0 - 5 F	⇒A 校が優位となる。
15 マッチ	9 マッチ	

〈例〉取得マッチ数が同じ場合（取得ゲーム差を見る）

A 校・B 校共に 3 勝 2 敗 15 マッチであったとき、各対戦校との得失ゲーム差を数を計する。

【A 校】	対	【B 校】
2	S1	1
3	S2	0
2	D1	0
1	D2	2
1	S3	2
8	—	5 = 3

左の計算図は、A 校が B 校との試合で取得したゲーム数の合計から失ったゲーム数の合計を引いた数（=得失ゲーム差）を計算した図である。A 校に対して、B 校と同じように CDEF 各校と計算し、それらの合計を算出する。続いて、B 校も A 校と同様に各校に対する計算をし、それらの合計を算出する。算出した数字を比べ、得失ゲーム差が多い方を優位とする。

## 第 7 章 昇降部

第 13 条 各部の最下位校と次の部の優勝校で入れ替え戦を行う。

第 14 条 欠場の場合はその学校は入れ替え戦をせずに次の部の学校と順位を入れ替わる。

2 季連続不参加（出場停止も含む）の場合は最下部に降格し、3 季連続不参加の場合は登録を抹消する。

第 15 条 1 部 6 校を原則とするが、8 校まではそのままの部に属し、9 校以上となった場合は新しく次の部を編成する。

## 第 8 章 試合時の留意事項

第 16 条 ベンチ入り出来る者はレギュラー登録用紙に記入された者と部長・監督・コーチ・主将・主務とする。

第 17 条 レギュラー登録数は男女 14 人以内とする。

第 18 条 コートマナーについて次のようにする。

1. 学生バドミントンは日本バドミントン界の模範とならなければならない。出場選手は充分自覚し品位ある態度で競技すること。
2. 競技中に大声を発する事は謹むこと。

第 19 条 諸注意について

1. 応援はスポーツマンシップに則り、品位のある応援をすること。選手に悪い影響を与えるような応援は禁止する。
2. 会場内では、土足の区別、喫煙、飲食の場所を守ること。
3. プレー中の選手以外は一切競技区域に入らない。（モップがけ等は主審に申し出る事）
4. 広告看板をたたいたり壊したりしないこと。
5. ゴミ等は必ず持ち帰ること。
6. 体育館内の温度、湿度の変化によっては試合を中断し、換気を行なうこともある。

## 第 9 章 附則

第 20 条 本細則は常任委員会で審議し総会で決定する。

第 21 条 本細則は平成 23 年 4 月 1 日より実施する。

◎今大会の注意事項 今大会も引続き、着衣・背面に関する違反は厳しく対処いたします。また、アリーナへの飲食物の持ち込み等も厳しく対処いたしますので、各大学で注意してください